



[第2回]

平泉 中尊寺金色堂

奥州ゴールドラッシュ

平安時代の奥州は ゴールドラッシュ!?

13世紀に世界を旅したマルコ・ポーロは『東方見聞録』の中で、日本を「黄金の国・ジパング」と紹介し、純金ずくめの王宮などについて触れています。これは、一説には岩手県平泉町にある中尊寺金色堂に端を発したものだと考えられています。

奥州の藤原氏が栄華を極めた12世紀、奥州は空前のゴールドラッシュに湧き、第三代秀衡の頃の最盛期には、平泉は人口10万人を超える大都市だったと推定されています。

日本で最初に金が発見されたのは8世紀のこと。宮城県遠田郡涌谷町に黄金山神社という神社があり、この社伝によれば、『天平二十二年(749年)に、この地から日本で最初の金が産出されたことを記念して建てられた』とされており、ここをはじめとする奥

州の所々で産出される砂金は、都はもとより遠く中国までも渡っていきました。

そんなゴールドラッシュを象徴する伝説が「金売吉次かねうりきち」の伝説です。

吉次は平安時代末期にあらわれた商人で、ここ奥州で産出される砂金を、遠く都で商売とされます。源義経が奥州平泉に下るのを手助けしたとも伝えられる人物ですが、実際には吉次の存在を裏付ける資料はほとんどありません。あくまで伝説ではありますが、当時の奥州が莫大な砂金を産出し、多くの商人が都をはじめとする日本の主要都市で金を商う姿が、こうした「金売吉次」という人物を作りあげたと考えてもよさそうです。

奥州藤原氏は、この砂金をはじめ、奥州の産物の海外交易に力を注ぎ、奥州の黄金文化を築きました。

当時わが国には日宋貿易のおかげで大量の宋銭が流通していました。平清盛が人工港を

前沢・水沢(奥州市)へ

中尊寺境内MAP



初めて開いた博多から荷揚げされた輸入品の中で、経典や象牙、薬用の犀さいの角など貴重な品物の数々が、奥州からの金と引き換えに直接この地にも渡ってきたといわれています。

交易で巨万の富を築いた奥州藤原氏、その初代・藤原清衡が中興したのが中尊寺です。

中尊寺とはどんなお寺?

中尊寺はもともと嘉祥三年(850年)、比叡山延暦寺の高僧慈覚大師円仁によって開

世界遺産をもっと知ろう

世界遺産とは、地球の生成と人類の歴史によって生み出され、過去から引き継がれた貴重なたからものであり、さまざまな国や地域に住む人びとが誇る文化財や自然環境を未来に伝えていくために、ユネスコ内のユネスコ世界遺産センターが登録し、世界各国にその保護を求めるもの。

世界遺産は3つのカテゴリーに分類されています。

- ・文化遺産として顕著な普遍的価値を有する記念物、建造物群、遺跡、文化的景観など
- ・自然遺産として顕著な普遍的価値を有する地形や地質、生態系、景観、絶滅のおそれのある動植物の生息・生息地などを含む地域
- ・複合遺産として文化遺産と自然遺産の両方の価値を兼ね備えている遺産

現在では、文化遺産704、自然遺産180、複合遺産27と合計911の世界遺産が登録されています（2010年8月現在）。

日本には現在16の世界遺産が登録されています（2011年6月現在）。奥州平泉は文化遺産として、また、小笠原諸島は自然遺産として先ごろ登録されたことが話題になりました。みなさんも行楽の秋に、世界遺産をめぐる旅に出かけてみませんか。

- 1 知床
- 2 白神山地
- 3 平泉—仏国土(浄土)を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群—
- 4 日光の社寺
- 5 白川郷・五箇山の合掌造り集落
- 6 古都京都の文化財
(京都市・宇治市・大津市)
- 7 古都奈良の文化財



- 8 法隆寺地域の仏教建造物
- 9 紀伊山地の霊場と参詣道
- 10 姫路城
- 11 石見銀山遺跡とその文化的景観
- 12 原爆ドーム
- 13 厳島神社
- 14 屋久島
- 15 小笠原諸島
- 16 琉球王国のグスク及び関連遺産群

されました。その後、12世紀のはじめに清衡が中尊寺一山の造営に着手し、21年の歳月をかけて完成させました。

中尊寺を再興したのは、11世紀後半に東北地方で続いた前九年の役と後三年の役などの度重なる合戦で亡くなった霊を敵味方の別なく慰めるとともに、「みちのく」といわれ、都からはるか遠く、辺境とされた東北地方に、「仏国土(仏の教えによる平和な理想社会)」を建設しようと考えたからといわれています。

天治元年(1124年)には清衡は有名な金色堂を上棟させます。この金色堂は光堂と

も呼ばれ、床も含め金銀瑠璃玉、蒔絵や螺鈿細工とさまざまな美術工芸の粋がおしげもなく使われています。これは、光り輝く阿弥陀浄土の世界をあらわしており、極楽浄土をイメージしたものです。

しかし、奥州藤原氏の栄華も長くは続きません。文治五年(1189年)、源頼朝に追われる義経をかくまったことを理由に頼朝に攻められ滅亡してしまいます。

こうして鎌倉時代以降、大きな庇護者やうしなつた中尊寺は次第に衰退し、建武四年(1337年)の火災で多くの堂塔、宝物が

焼失しました。俳人松尾芭蕉が訪れたときには、さびれきつていたといいます。しかし創建当初の姿を今に伝える金色堂をはじめ、絵画、書跡、工芸、彫刻などの文化財は平安仏教美術を今に伝えています。

金色堂は明治三十年(1897年)に特別保護建造物、昭和二十六年(1951年)に国宝建造物の第一号に指定されるなど、その文化的遺産としての評価は早く、2011年には中尊寺をはじめとする平泉の文化遺産がユネスコの世界遺産に登録されることとなりました。

参考資料：「奥州藤原氏」吉川弘文館、「歴史ビジュアル実物大図鑑」ポプラ社、「古寺を巡る4 中尊寺」小学館、「関山中尊寺」(HP)、「平泉」(HP)、「世界遺産活動」(HP) など